

七月十七日

帯広(十勝)への機中。ヘレン・ケラー記念塔の宿泊棟を建設することになり、後藤さんと打合わせ方々十勝行が決まった。ついでにツアーも組んでみようという事になって、本日総勢十名程で北海道へと飛んでいる。インターネットで人が集まったツアーでもある。

昨日の日用雑貨ミーティングでは院生からの提案が2点ほど陽の目をみる事になった。少しづつ商品が増えている。あきらめずに進めてゆきたい。

冬に予定しているブロンペンカトマンズツアー・ワークショッップはカンボジアでひろしまハウスのレンガ積み及びアンコールワット見学。ネパールのカトマンズでキルティプール集落の実測調査を行うおうという計画。来春も続ける予定。

夏は久し振りに休めるので、東北三陸リアス式海岸の唐桑半島で一週間ほどのんびり過ごしてみようと考えている。唐桑で一週間の小ワークショッップをしてみようかな。八月中旬は李祖原に呼ばれているので台湾に行かなくてはならないだろう。今年は旅から旅に明け暮れているなあ。

昼過帯広空港着。後藤君出迎えてくれる。車2台に分乗してヘレン・ケラー記念塔へ。車椅子の丹羽君をかつき上げて4階へ。今日も幌尻岳は見えなかったが眺めは良かった。一階で女性三名

が給仕してくれて昼食。サラダじゃがいも、トリ肉等おいしかった。沢山喰べた。食後記念写真をとって幸福駅へ。十勝の方々に気を使わせてしまい観光らしい観光までしてしまった。十勝の風景を楽しみながらフィールド・カフェとやらへ。なんだかインチキ臭い名前なのでどんなものかなといぶかしんで来たが、意外や意外、仲々のモノであった。広大な麦畑の中に十人程が座れるテラスがセツトされ、パラソルが二つ広げられている。あそこまで車椅子をどうやって運ぶのかと思っていたら、なんとトラクターがやってきて車椅子ごと丹羽を乗せてゆつくりと麦畑の中を走るのだった。

麦畑の穂先の上に浮いての食事は実に快適だった。風よし、ほのかな香りよし、太陽の光よしで満足。坂本後藤両君は北の屋台で自信をつけたな。この演出はウチも何かで学んで生かしたい。夕方まで談笑。北海道ホテルへ。チエックインの後すぐに北の屋台へ。参加者達と分かれて銀河ソバ屋へ。春山二三男氏と再会。ダツタンソバの種をもらうことになった。二十二時ホテルに戻り、モール温泉につかりようやくゆつくりとした。ヘレン・ケラー記念塔の宿泊棟のボンヤリとした考えが出てくるような気がしている。長い一日だった。明日は朝八時五〇分ロビー集合となった。

七月十八日

十四時三〇分頃離陸只今機中。今朝は再びモール温泉につかり鋭気を養う。昨夜は良く眠れた。ホテルで朝食後九時発。帯広競馬場へ。デメーテルとかち国際現代アート展を見る。川俣正小野ヨーコ、インゴ・ギュンター、蔡国強等の作品を見た。広い競馬場を使っている面白さはあるが、全体としては印象が薄い。帯広市、北海道庁からも数千万円の補助金が出され、総額としては二

億五千万円くらいの事業費になっているらしい。これは新しいタイプの公共事業だな。ダムや道路を作る代わりに芸術家を遊ばせている。芸術家たちも芸術家で木馬を作って木の道も作り、不在の競馬場とやらの名前も与えて、なんだこれかと思うばかりの川俣正の作品の類ばかりなのである。下らない。圧倒的に下らない。こんな事に税金が使われて良いのかと呆然とするばかり。アーチストは自分の金でやってもらいたい。自分の金で自分の責任でやるのがアートだろう。新潟の妻有だったか、北川フラムのプロジエクトも完全な公共事業であった。芸術が公共事業を頼りにしてどうなるのだ。帯広デメーテルのディレクターは芹沢高志と聞く。これはイカンよ芹沢さんという感じだ。アート関連のプロデューサーは自分で金を作る能力を育てなければイカンぜ。いくら文化事業だからと言って聖域はあり得ない。公共事業を喰いモノにしてはいけない。レストラン白樺でジンギスカンをたらふく食って、六花亭経営のレストランへ。この菓子屋は美術も何もかも、みんな自前でやっているのが潔い。

十勝毎日の記者インタビューがあつたが、勿論こんな事は言わなかつた。北の屋台は成功したようですねと帯広競馬場で言っただけ。

私も頑張っただけがなくてはいカン。